

終点、江差駅は珍しく職員が見えたが委託駅であった。

江差駅では北海道としての最後の日本海を見るが、やはり美しいの一言であった。

「えさし」と付く市町は、岩手県江刺市、北海道枝幸町とこの江差町と 3 つあるが、駅が設置されているのは、この江差駅だけである。



15.09.07 JR 北海道 21 江差

帰路は木古内駅から蟹田駅まで特急に乗るが、乗り継ぎの時間は来る時と違い 1 時間半もあった。これは計画の時点から分かっていたので、駅前にある銭湯を利用するつもりでいたが本日は休みの知らせには ガッガリ した。

この銭湯は以前に何度も利用したことがあり、大きくて綺麗だった印象がある。

ホテルの風呂ばかりでなく、たまには大きくて深い湯船に身を任せ旅の疲れを癒すのもあった。

また、地元の人との触れ合いも期待して、時には裸の付き合いもまた楽しであった。

仕方がなく、駅前を ブラ ついたりして待つことにした。

木古内駅前には、松前出張所行き 1 台の函館 バス が待っていた。

小生には、駅前に バス が止まっていると決まって行く先を見る習慣があった。

ここから以前に松前線が走っていたことを思い出した。

しかし、この線も昭和 63 年 2 月には廃線になってしまった。

松前線は木古内駅から松前駅までの 50.8 Km のローカル線であり、飲酒をしながら？ 海岸線 を走り、列車から見た美しい車窓を楽しんだことを思い出す。

何故かと聞かれると、白符「しらふ」と言う駅があり、素面「しらふ」では乗れない線？ であったことを “素面” の今でも思い出す。

松前線は、正に、“飲んだら乗るな” でなく “乗るなら飲めよ” であった。

こんな標語が駅に張っていれば、警察庁からクレーム 来るのは必死であった。

もう 1 つは、「渡島」「おしま」駅が多かったことである。

廃止により、この「渡島」の駅名もなくなり “オシマイ” になった。

でも、渡島当別駅、渡島鶴岡駅などは利用者から、廃止が “オシマ” れてかろうじて残り健在していた。